

廃棄予定だった規格外小麦食品、クッキーなど甘い食材を混ぜ込むことで、豚の好みの味になるんだそう。



豚たちは衛生的な環境で育ち、出荷を待つ。「おいしい豚肉になってほしい」という想いを込め、10人のスタッフで世話をしている。



「ひとつの「いのち」を食卓へ

トヨタファーム

生産者から  
伝えたい

トヨタファーム 代表  
すきがら ゆういち  
鋤柄 雄一 さん

平成25年よりトヨタファームの代表をつとめる。畜産業界の現状を知ってもらおうと、地域の小中学校での食育活動を積極的にしている。豊田市の農家集団「夢農人とよた」の発起人として、豊田の農業をバックアップしている。



く目にする食材の形になるまでには、屠殺はもちろんのこと、母豚の乳首が傷つかないよう子豚のうちを抜いたり、噛みちぎるのを防ぐため尻尾を切断するなど、「一見すると」「残酷」と捉えられてしまうような作業も必要となる。「生産者がどのように、どんな想いで育てているか知ってほしい。日常生活で気軽に肉を食べられるようになった現代だからこそ、「いのち」をいただいているということを再認識してもらえば。」トヨタファーム代表として10年、養豚業界の現状を一番近くで見てきた鋤柄さんから発せられる言葉は、どれも切実なものばかりだ。

私たちの食卓に必要な不可欠なお肉や魚、生産背景を知ることは、常に消費され続ける様々な「いのち」たちに対する、最大限の感謝の形なのかもしれない。

豊田市内で最も大きな養豚場といえば、ここトヨタファームを思い浮かべる方も多いだろう。豚肉の美味しさを追求した「三州豚」や、地域と密着してブランドングを進める「ひまわりポーク」など、独自の仕組みづくりによる飼育を行っている。

特にこだわっているのが、美味しく安心安全な豚肉に欠かせない「飼料」。通常はほとんどを輸入飼料に頼っている日本の養豚業界だが、トヨタファームでは10年前から資源循環飼料「エコフード」と呼ばれる仕組みを導入。食品工場から出る規格外のパンやクッキー、乾燥などの小麦食品を飼料として与えることで、環境や人体にも優しく、美味しい豚肉になるという。豚に与える前に鋤柄さん自ら味見をして、ほかに甘さを感じるよう調合するなど、餌へのこだわりが垣間見える。

命を取り扱う現場では、私たち消費者が目を見てはいけない現状がある。2019年にトヨタファームで豚コレラが発生した際には、自衛隊が出動し24時間体制で約6000頭を殺処分した。鋤柄さんは「お肉になるために屠殺場で殺されるのと、埋めるために殺されるのでは全く意味が違ってくる。殺すときの感触が未だに忘れられない」と当時を振り返る。

豚肉としてパック詰めされ、店頭に並ぶ豚肉のスライス、よ

新Life10周年! 感謝を込めて  
読者プレゼント

トヨタファームの  
三州豚セット

1名様

応募方法はp.53をご確認ください



トヨタファーム  
TEL 0565-52-4757  
HP <https://toyotafarm.com/>  
SHOP  
●イオン高橋店・イオンスタイル豊田  
●マックスバリュ豊田西郷店  
●おいでん市場・メグリア飲食部店  
ほか市内飲食店など

※2020年2月から「豚熱」に名称が変更になりました。本記事の内容では2019年に発生した事件のため、「豚コレラ」と表記しております。



耕Life10周年  
特別企画  
対談

豊田市長

太田稔彦

澁澤寿一

NPO法人  
共存の森ネットワーク理事長

**澁澤 寿一** Juichi Shibusawa  
NPO法人共存の森ネットワーク理事長

1952年生まれ。国際協力機構専門家としてパラグアイに赴任後、長崎オランダ村、ハウステンボスの企画、経営に携わる。NPO法人共存の森ネットワーク理事長。全国の高校生100人が「森や海・川の名人」をたずねる「聞き書き甲子園」の事業や、各地で開催する「なりわい塾」など、森林文化の教育、啓発を通して、人材の育成や地域づくりを手がける。明治の表業家・澁澤栄一の曾孫。農学博士。

**太田 稔彦** Toshihiko Oota  
豊田市長

1954年生まれ。愛知県豊田市生まれ。1977年(昭和52年)3月、早稲田大学商学部卒業。同年4月1日、豊田市役所に奉職。行政経営課長、経営政策本部長、総合企画部長を経て、2012年に市長就任。2022年現在三期目。

**10周年を迎えた地域情報誌**

まずは、耕Life10周年に一言コメントをお願いします。

**澁澤** 10年間拝読しています。初めて見た時に、これだけの質のものがどれだけ続くのだろうか?と心配でした。取材も内容も作り込まれていたので、10年間続いた原因の一つは、10年間面白い人が絶えず豊田市に居ることだと思います。これからも発信し続けていただきたいと思いますが、今後もそんな豊田市であって欲しいと思います。

**太田** 私は2012年の4月に市長に就任しました。耕Lifeはその年の9月に発行されていて、ほ

**どう生きていきたいか**

市長は国連へ行かれ、色々と思うことがあったようですが、その時のお話を聞かせていただけますか?

ぼ同じ時期に誕生しています。耕Lifeが豊田市に住む様々な人々を応援し続けてきた10年間、自分を振り返り、私も応援できていたのだろうか?と勉強させていただいたと思っています。10周年おめでとうございます。

**太田** 7月にニューヨークの国連本部と呼ばれ、豊田市のSDGsについて話してきました。今の私たちの暮らしは持続可能ではない、これからのヒン

トは途上国の暮らしの中にある、共に取り組んで行きたいとお話させてもらいました。日本は7割が森林で、豊田市も7割が森林です。よく日本の縮図だと表現しています。耕Lifeの記事で取り上げられる、山間地で暮らし人たちの暮らしの中にも、途上国と同様にこれからの社会を考えるヒントがあるのではないかと考えています。ニューヨークで現地の日本人の方と話した際に、市民の1人であり、耕Lifeにも掲載されている女性孤児の話が出ました。こういう生き方に憧れがあるんだという話を聞き、価値観は国を超えて共有されるのだと思いました。豊田市は最先端のテクノロジーを使う都市の部分と孤児という生き方ができる山村のフィールドが両方存在している地域なのです。

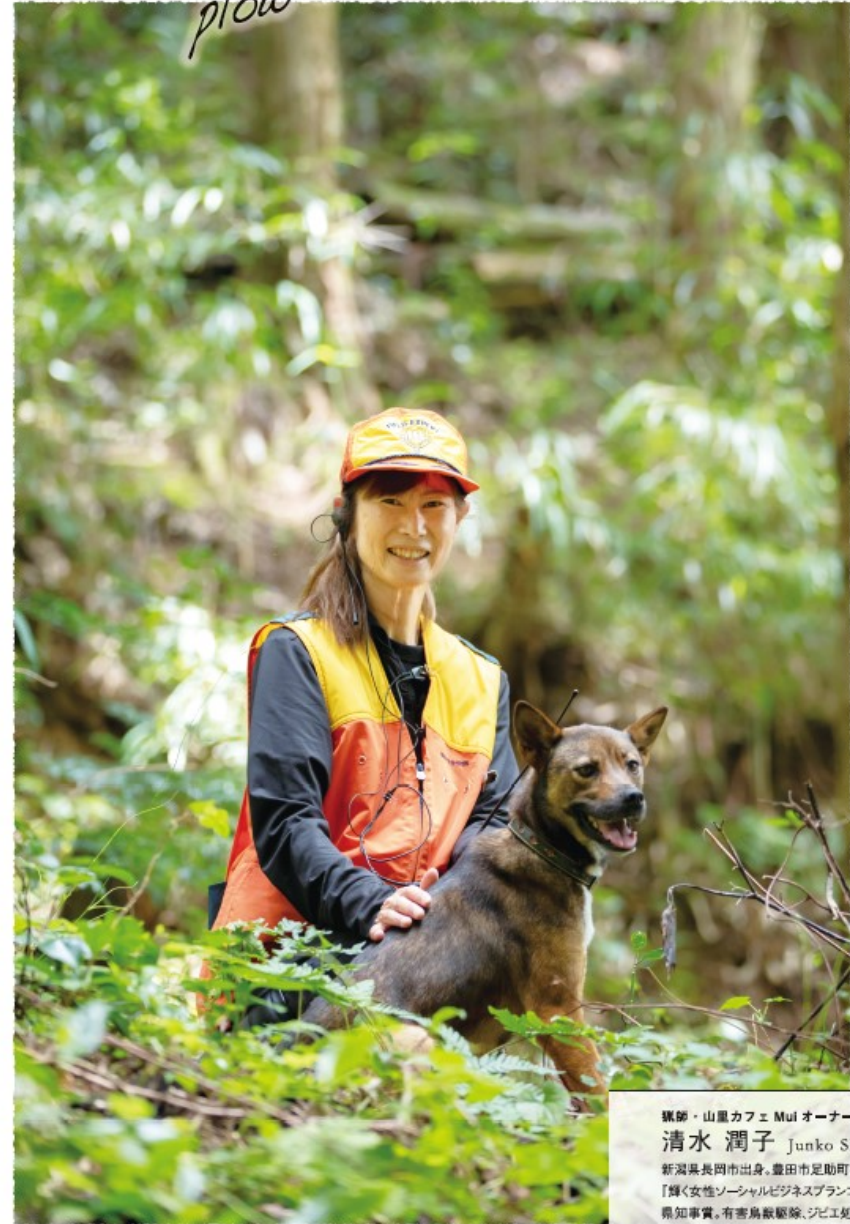
澁澤 世間一般では、いつかは田舎暮らしと言われる様な、都会の人間が一つの憧れの実現できている暮らし方が、豊田市の中山間地では実現できています。今の子どもたちに夢を聞くと、お医者さんとか、ユーチューバーとかどうしても何をやる人かという「D」を答えなければならぬという雰囲気がある。でも本当は「優しい人になりたい」だとか「家族の愛情を感じられる暮らしをしたい」だとかどう生きたいかという「B」の部分を実感として持っています。でも今の教育現場ではなかなか拾い上げる事ができていない。耕Lifeの特集記事はまさに「B」に焦点をあてて、生き方、暮らし方を取り上げています。これからの価値観を考えていく時のすくすくいいヒントになるんだろうなと思っています。

# 耕人 plow-do

vol.41

このまちで日々人生を  
耕している人にお話を伺いました

## 命の循環が紡ぐ繋がり



講師・山里カフェ Mui オーナー  
清水 潤子 Junko Shimizu

新潟県長岡市出身。豊田市足助町在住。  
「輝く女性ソーシャルビジネスプランコンテストあいち2018」にて愛知県知事賞。有害鳥獣駆除、ジビエ処理施設での精肉、ジビエ料理の提供まで一貫して行っている。

一緒に猟へ出る愛犬ベリーと共に



近所の人から「ありがとう」と言われるから続けられる、と語ってくれた

### 「ありがとう」の言葉で続けられる

豊田市足助地区で狩猟を行い、獲った肉を使った料理でカフェを営んでいる清水潤子さん。清水さんの一日は愛犬のベリーと共に仕掛けた罠を見回ることから始まる。カフェに予約が入っていたらランチの仕込みをし、お店を開ける。完全予約制で、予約の無い日は狩りに出かける事もある。取材に伺ったのは8月中旬だが、7月からの約1ヶ月間で既に30頭ほどの鹿を撃ち獲ったという。

この暮らしを営む様になったきっかけは、足助の農業体験で出会った人たちとの縁。元々は介護士として仕事をしていたが、ガンを患った事をきっかけに離職。療養のさなかに足助で来づくり体験や丸太小屋づくりに参加した。農業体験の中で野生のイノシシや鹿による農作物被害の深刻さを目の当たりにし、「イノシシを獲ってくれ！」と頼まれた。その場に



た3名で狩猟免許を取りに行く事を決意したそう。イノシシの駆除をするも自分の畑ではなくも近所の方々が集まり「ありがとう」と声をかけてきてくれた。それが嬉しかった」と語る清水さん。農作物の被害を防ぐための駆除とはいえ、動物の命を奪う事。「なるべく苦痛を与えない様に頭を二撃で仕留める様になっている」と頭蓋骨を指しながら教えてくれた。そして、山の恵である動物たちを廃棄するのではなく食べようと考え、食肉解体施設も作った。様々な問題を解決するため保健所を訪ねたり、施設を作るための資金の半分をクラウドファンディングで募るなど、段階を踏んで少しずつ実現し、2018年に山里カフェMuiがオープンした。

鹿のツノはペットフードに、肉はカフェで提供したり飲食店に卸したりする中、皮は廃棄物になっていた。しかし、ある時社会福祉法人輪音から鹿の皮の加工ができる、という申し出があり、鹿の皮を提供することになった。生活介護水音の利用者の方が皮を加工し、皮細工品を作ってくれる様になり、鹿の毛や皮がおしゃれなストラップやキーケースなど新しい革製品が続々と生まれている。「これまで産業廃棄物として捨ててしまっていた部分がこんな風に変わって嬉しい」と清水さん。「捨てるものはない」という言葉に、命に向き合う人の暮らしの原点を感じた。(文・西村みほ)



山里カフェMui・ジビエ処理施設Mui

住所 愛知県豊田市北小田町台母平26  
TEL 090-5037-5199  
MAIL <https://www.muil3cafe.com>



社会福祉法人輪音の生活介護 水音(みずね)で制作された鹿の毛や皮を利用したキーケースやストラップ